

## 長原高廻り古墳 1号・2号

1987年9月から1988年1月にかけて発掘調査が行われた。両古墳とも5世紀前半に築造と考えられる。

1号墳は方墳で一辺が15m、周溝を含めて21.5m、2号墳は円墳で直径が21m、周溝を含めて24mである。両古墳は7世紀に水田開墾する際に墳丘のかなりの部分を削られ、さらに8世紀に洪水によって運ばれた土砂により埋められ（厚さ80cm）殆ど地表から姿をかくしていた。

船形埴輪は両方の古墳から出土したが、全体の半分くらいしか残っていない1号墳に比べて2号墳はほぼ原形をとどめた状態であった。船体の長さ128.5cm、幅26.5cmである。

船形埴輪の他には、冢形、盾形、短甲（鎧）形、草摺形、鞞（ゆき）形、円筒形などがでている。

出所： 大阪市文化財情報誌「葦火」No.13(1988.4)